



アーサリン・カズン  
事務局長

# World Food Programme

## 略歴

アーサリン・カズンは 2012 年 4 月 5 日に 12 代目 WFP 国連世界食糧計画事務局長に就任しました。

カズンは 25 年以上にわたり、米国及び国際的な場において、非営利団体、政府、企業を率いて、飢餓や食糧問題、また危機からの回復戦略の分野でリーダーシップを発揮してきました。WFP では、食糧支援の緊急なニーズに対応しつつ、食糧不足と飢餓の長期的な解決を目指し、精力的に活動を展開します。

WFP は、約 1 万 5 千人の職員を擁し世界 78 カ国でおよそ 1 億人に支援を行う、世界最大の人道支援機関です。カズンはそのトップとして飢餓に苦しむ世界の人々の生活向上を訴え、また食糧不足や慢性的栄養不良の問題への認識を高めるべく、様々な場所に足を運びます。

2009 年、カズンは、バラク・オバマ米大統領の指名と米上院の承認を受け、食糧・農業関連の国連機関及び在ローマ国連機関米国政府代表部大使に就任しました。米政府を代表して飢きん救済や飢餓解決に携わった 3 年弱の任期中、カズンは、世界の最も過酷で危機的な飢餓状況に対し米国や国際社会が政策を策定する過程に貢献してきました。特に、2010 年のハイチ大地震等においては、復興から開発に至るまでを一本化させた支援策を提唱し、また同年のパキスタンでの洪水や翌年「アフリカの角」で発生した干ばつにおいては、現地国主導による持続的な農業支援策の必要性を訴えました。



World Food Programme

wfp.org/jp

## 略歴

アーサリン・カズン  
事務局長

在ローマ米国政府代表部大使としては、ローマに本部がある 3 つの食糧農業関連の国連機関（国際連合食糧農業機関、国際農業開発基金、および WFP 国連世界食糧計画）の相互協力体制の向上と、男女格差解消の考えを取り入れた指針やシステムづくりに尽力しました。任期中には世界食料安全保障委員会の改革に携わり、より開かれた場とするために国連機関や NGO、市民団体を構成メンバーに加えたり、結果主義の枠組みを導入したりするなどしました。2011 年には、国際開発法機構の加盟国議会議長にも就任しました。

ビル・クリントン政権下では 4 年間、国務省渉外担当や国際食糧農業開発委員などの要職を歴任しました。

また米国内最大の飢餓対策機関「Feeding America（当時は America's Second Harvest）」の副代表兼最高執行責任者を務めた経験もあり、ハリケーン・カトリーナが米国を襲った際には、メキシコ湾岸地域で支援を必要とした人たちへの食糧等の救援物資配給を指揮しました。

民間の食品小売業での経験も豊富で、米国の大手食料品店チェーン「Albertsons Foods」及び「Jewell Foods」では政府渉外・地域担当を務めました。「Albertsons Foods」時代には同社財団の代表理事長も務め、慈善活動を主導しました。

カズンは、シカゴ出身。イリノイ大学シカゴ校及びジョージア大学法科大学院卒。食糧問題や慢性的な飢餓問題の優れた有識者として知られています。ローマ在住。

2012 年 4 月更新